

看護ケア推進たより 4号

こんにちは KKS21です

2014年2月

いよいよ4月から大阪厚生年金病院から独立行政法人地域医療機能推進機構大阪病院へ移行になります。62年間大阪厚生年金病院で培われた質の高い医療・看護、人を癒し、人を活かす職場風土を継承しつつ、新しいJCHOの風、使命を吹き込んで真の地域医療に貢献できる病院に飛躍したいと思います。



私たちは今まで通り、職員一人一人が誇りを持って働き続けられる環境と働き続けたい現場づくり、一人一人の実践力を向上させ、地域の方々と真の協働ができるような人材育成に取り組んでいきます。現在、看護ケア推進会議のメンバーである組織横断的に活動するスペシャリストが、現場のスタッフと協働し、質の高いケア提供を目指しているように、地域の医療・福祉のワーカーの皆様と顔の見える連携、協働を更に強めたいと思います。地域の皆様からも信頼され、活用してもらえる看護実践を重ね、新病院の名称通り、地域医療機能を推進する病院となるよう、気持ちを新たに、明るくチーム一丸となって前進しましょう。

在宅療養支援診療所・訪問看護ステーション研修を終えて

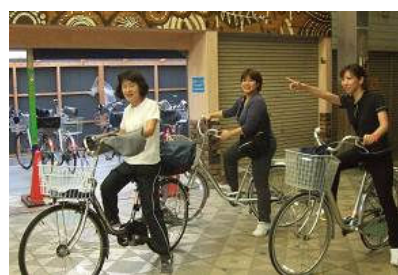
今年度、大阪厚生年金病院看護部は、福島区医師会ならびに此花区医師会にご協力いただき12名の看護師の在宅療養支援診療所・訪問看護ステーション研修を実施しました。

「患者・家族の生活背景に合わせた質の高い療養支援と、円滑な地域連携をするために、訪問診療・訪問看護の実際を知る。」を目的とし、住み慣れた地域で生活されている患者宅への訪問に同行させていただきました。9月中旬から10月にかけて1グループ



(松井クリニック 松井院長先生と)

3日間の日程で実施した研修は、全グループ心配した雨にも遭うことなく、少し日焼けをして帰院する看護師の表情は、皆生き生きとした素敵なものでした。かかりつけの先生と患者さんとの会話、訪問看護師さんの笑顔に、安心した表情で暮らしている患者・家族を目の当たりにし、多くの学びを得て更に看護力をアップして研修を終えることができたのではないかと実感しています。研修で訪問した患者さんの生活を通して、急性期病院の看護師としてどんな療養支援・地域連携をおこなうべきかを知ると同時に、「医療者が、患者さんの自宅退院の限界を決めてはいけません。患者さん、ご家族の本当の気持ちに寄り添って、自宅退院を実現できるよう支援していきたい」という言葉に、学びの大きさを感じています。



(訪問看護ステーション此花 金子看護師さんと)



最後になりますが、研修にご協力いただいた先生方、訪問看護師の皆様、心より感謝申し上げます。ありがとうございました

(療養福祉相談室 北由美)

「第3回大阪厚生年金病院ケア連携の会」開催報告

平成25年11月29日（金）に「第3回大阪厚生年金病院ケア連携の会」を開催いたしました。今回は“頻繁に救急受診を繰り返す認知症患者の地域連携を考える”をテーマに一症例を通してグループワークを行いました。当日は、院外から25施設33名の方と院内23名の計56名の参加となり、各グループとも活発な検討がなされました。グループワーク後におこなった意見交換では、ケア連携の重要性、認知症患者と真摯に向き合うことの重要性を再確認すると同時に、「まだまだ出来るケアはある」と実感できた有意義な全体検討となりました。今後も「繋げようケアの力！ 広げようケアの輪！ 高めようケアの質！」を合言葉に、様々なテーマで「ケア連携の会」を企画していこうと考えています。

（療養福祉相談室 北由美）



～第4回大阪厚生年金病院ケア連携の会のお知らせ～

日時：2014年3月12日（水）18:00～大阪厚生年金病院 第一会議室

テーマ：誤嚥性肺炎のあるねたきり患者の体位変換について考える～ 一事例を通して ～
対象：地域の医療・介護従事者

体位変換の目的は褥瘡予防だけではなく、廃用・拘縮予防、体位ドレナージによる肺炎予防など、さまざまな目的を備えています。退院後の生活をふまえ、地域のみなさまおよび多職種の方の意見をまじえて検討していきたいと思っております。

第25回 乳がん患者会「輪～つながり～」総会の報告

当院の「乳がん患者会」は2003年に発足、継続そして進化しながら10年が経ちました。今年も、ピンクリボン月間である10月19日に恒例の総会を開催しました。講演会だけでなく、参加型のイベントブースを企画し、約60名近くの患者さんにご家族にご来場頂きました。当日は、医師・看護師18名、ボランティア10名、ウィッグや下着メーカー5社が協力して下さいました。

まず、前半は乳腺内分泌外科の塚本部長による‘乳がんの最新治療’、そして普段は聞くことのできない病理科春日井部長による‘病理のお話’、最後は大阪大学形成外科教授の矢野健二先生に‘乳房再建’についてご講演いただき、「勉強になった、興味深かった、分かりやすかった」と大盛況でした。



後半は、体育館でイベント開催！！看護師のリンパマッサージや自己検診指導、業者の協力のもとウィッグやリマンマ製品の紹介や試着、メイクセラピーにセラピューティックケアと、盛りだくさんの内容を提供しました。

そして、最後には「ヘアメイクショー♪」実際に化学療法で脱毛している患者さんたちがモデルになり、気になる肌の浮腫みやくすみへのケア、まゆ毛の書き方やメイクを実演、仕上げにはウィッグを着用。参加者に囲まれたランウェイを、スカーフやアクセサリーでアレンジをしてウォーキング♪ 会場は手拍子と笑顔でいっぱいになり、心温まる一日でした。



(乳がん看護認定看護師 今井康乃)

新メンバーの紹介

大石愛（がん性疼痛看護認定看護師）

緩和ケアチームでの活動、病棟での実践を行っております。がん患者様・ご家族の痛みを全人的（身体的、社会的、精神的、スピリチュアル）にとらえ、医師や薬剤師、多職種と協働し、緩和に努めたいと思っています。医療用麻薬をはじめとする薬物療法や看護ケアなど患者様一人一人に合った方法を考え、患者様の望む生活が実現できるよう援助していきます。



小井里香（感染管理認定看護師）

看護師を10年経験した時、看護師として働いていく上で自身に強みがほしいと思い、2013年7月に感染管理認定看護師の資格を取得しました。現在は手術室と兼任で勤務しておりますが、外科病棟の経験も活かし、外科系の感染管理は任せてもらえるよう、頑張っていきたいと思っています。



編集後記：

看護ケア推進便りも今回で第4号の発刊となりました。発刊当初の本会の参加メンバーの人数からサブタイトルをKKS21としていましたが、嬉しいことに仲間が増えて今では24名となり、各分野の活動内容やチーム活動を報告させていただいています。A●B48のようにさらに仲間が増えるといいな・・・と一人妄想する、編集後記担当Mでした。今後もこの便りのご意見ご感想、掲載してほしい内容などご意見お待ちしておりますので、よろしくお願ひします。また、推進たよりは病院ホームページとデスクネッツにも掲載していますので、よろしければご活用ください。